

ゼロから始める!クイックマスター

【数的処理・社会科学】

サンプルテキスト

目次

Part I	判断推理	1
<hr/>		
Chapter 01	論理	2
問題	6
解説	8
Chapter 02	対応関係	10
問題	16
解説	18
Chapter 03	試合	22
問題	26
解説	28
Chapter 04	数量推理	30
問題	34
解説	36
Chapter 05	順序関係	38
問題	42
解説	46
Chapter 06	位置関係	50
問題	56
解説	60
Chapter 07	真偽	66
問題	70
解説	74
Chapter 08	推理	78
問題	82
解説	84

Chapter 09	暗号	86
	問題	90
	解説	92

Chapter 10	操作手順	94
	問題	100
	解説	102

Part II 数の推理 **105**

Chapter 01	約数・倍数	106
	問題	110
	解説	112

Chapter 02	比・割合	114
	問題	120
	解説	124

Chapter 03	整数	128
	問題	132
	解説	134

Chapter 04	記数法・数列	136
	問題	140
	解説	142

Chapter 05	速さ	144
	問題	152
	解説	156

Chapter 06	覆面算・魔方陣	162
	問題	166
	解説	168

Chapter 07 その他の文章題 172

問題	180
解説	182

Chapter 08 場合の数 186

問題	192
解説	194

Chapter 09 確率 196

問題	200
解説	202

Part III 図形 205

Chapter 01 立体図形 206

問題	212
解説	214

Chapter 02 展開図 216

問題	220
解説	222

Chapter 03 図形の分割・構成 224

問題	232
解説	234

Chapter 04 軌跡・移動 236

問題	240
解説	241

Chapter 05 図形の計量 242

問題	252
解説	256

Part IV 資料解釈 265

Chapter 01 実数と割合 266

問題	268
解説	270

Chapter 02 構成比 272

問題	274
解説	276

Chapter 03 指数 278

問題	280
解説	282

Chapter 04 増減率 284

問題	286
解説	288

本テキストの改訂・訂正情報につきましては、LEC公務員ホームページの『テキスト改訂・訂正情報』（<http://www.lec-jp.com/koumuin/info/teisei/>）に、掲載されております。

Part I

判断推理

- Chapter 01 論 理
- Chapter 02 対応関係
- Chapter 03 試 合
- Chapter 04 数量推理
- Chapter 05 順序関係
- Chapter 06 位置関係
- Chapter 07 真 偽
- Chapter 08 推 理
- Chapter 09 暗 号
- Chapter 10 操作手順

判断推理は論理パズルです。

論理パズルと聞くと難しく感じますが、出題される問題のパターンは限られており、それぞれの解法も同様にパターンが決まっています。

このことから、出題分野ごとの解法を覚えてしまうだけで、他の数的処理の分野よりも得点しやすくなります。

01

論 理

「AならばBである」という形の論理について学ぶ。論理関係の表現方法には、矢印を用いて表す論理式と、包含関係で表すベン図の2種類がある。

- 1 「すべての～は……である」という問題文の場合
 - 論理式を用いても、ベン図を用いても、解くことができる。
 - 論理式を用いる際には、対偶や三段論法を効果的に用いることが重要。
- 2 「ある～は……である」という問題文の場合
 - 必ずベン図を用いて解く。

【例題 1】

あるクラブの会員について、次のア、イ、ウのことがわかっている。

ア スポーツマンは体力があり、持久力がある。

イ 体重の重い人は体力がある。

ウ 明朗な人はスポーツマンである。

以上から判断して確実にいえるのは、次のうちどれか。

- 1 スポーツマンの人は体重が重い。
- 2 体力がない人は持久力がない。
- 3 明朗でない人はスポーツマンでない。
- 4 体重の重くない人は体力がない。
- 5 持久力がない人は明朗ではない。

【解 説】

まず、論理式に必要な知識を整理しておこう。論理の問題の多くは論理式で解けるので、必ず身につけよう。

第1のポイント

- ① $p \rightarrow q$ で、「pならばqである」という命題を表す。別にp、qのようなアルファベットを使わなくてもよい。
- ② \overline{p} で、「pではない」という命題を表す。

以上2つで、簡単な命題なら論理式で表すことができる。

第2のポイント

「pならばqである」という命題に対して、「qでなければpではない」という命題を、元の命題の「対偶」とよぶ。ある命題とその対偶とはまったく同じものとして扱うことができる。

たとえば、 $p \rightarrow q$ の対偶は $\overline{q} \rightarrow \overline{p}$ である。

第3のポイント

論理式の性質として、 $p \rightarrow q$ と $q \rightarrow r$ が成り立つならば、qを媒介にして、2つの式を1つにまとめることができる。つまり、

$$p \rightarrow q \rightarrow r$$

このとき途中の命題（この場合はq）を取り去って、

$$p \rightarrow r$$

とすることができる。

この性質を利用して、

$$\text{「pならばqである」} \quad (p \rightarrow q)$$

$$\text{「qならばrである」} \quad (q \rightarrow r)$$

という2つの命題から、結論として、次のことがいえる（三段論法）。

$$\text{「ゆえに、pならばrである」} \quad (p \rightarrow r)$$

以上の知識を利用して、この問題を解いてみよう。

アより、スポーツ \rightarrow 体力

↓

持久力

イより、体重 \rightarrow 体力

ウより、明朗 \rightarrow スポーツ

これらを1つにまとめると、

明朗 \rightarrow スポーツ \rightarrow 体力

↓

持久力

↑

体重 となる。

あとは、1～5の選択肢を論理式で表して、検討すればよい。

1は、 $\overline{\text{スポーツ}} \rightarrow \overline{\text{体重}}$

2は、 $\overline{\text{体力}} \rightarrow \overline{\text{持久力}}$ の対偶は、 $\text{持久力} \rightarrow \text{体力}$

3は、 $\overline{\text{明朗}} \rightarrow \overline{\text{スポーツ}}$ の対偶は、 $\text{スポーツ} \rightarrow \text{明朗}$

4は、 $\overline{\text{体重}} \rightarrow \overline{\text{体力}}$ の対偶は、 $\text{体力} \rightarrow \text{体重}$

5は、 $\overline{\text{持久力}} \rightarrow \overline{\text{明朗}}$ の対偶は、 $\text{明朗} \rightarrow \text{持久力}$

確実にいえるのは、肢5のみである。

【正解】 5

02

対応関係

数種類のもものが、それぞれどのように対応しているかを考える。

- 1 数種類のももの対応関係を考える場合には、人間を中心にしてまとめるとよい。
- 2 表を用いて解くことが鉄則である。

【例題 1】

A, B, Cの3人は料理, 音楽, 読書, 陶芸, 旅行, 写真のうち, いずれか2つの趣味をもっている。次のア～キのことがわかっているとき, Bの趣味は何か。

- ア 同じ趣味のものはない。
- イ 料理が趣味の人は, 読書が趣味の人とAを食事に招待した。
- ウ 音楽が趣味の人は, BとCに演奏会のチケットを送った。
- エ 読書が趣味の人は, Cに愛読書を貸した。
- オ 陶芸が趣味の人と読書が趣味の人は, 同じ町に住んでいる。
- カ 陶芸が趣味の人と音楽が趣味の人は, 同じ会社に勤めている。
- キ 旅行が趣味の人と音楽が趣味の人は, 同じ学校に通っていた。

- 1 旅行と読書
- 2 料理と旅行
- 3 料理と写真
- 4 読書と料理
- 5 読書と写真

【解 説】

まず、条件アより6種類の趣味にそれぞれ1人ずつあてはまればよいことがわかる。

条件イより、料理が趣味の人と読書が趣味の人、Aは別人であるから、BとCの趣味が料理と読書のいずれかとなる。ここで、条件エより、読書が趣味の人はCではないので、Bの趣味が読書、Cの趣味が料理と決定する。また、条件ウより、Aの趣味は音楽と決定する。

次に、条件オとカより、陶芸が趣味の人は読書や音楽が趣味の人とは別人なのでCと決定する。したがって、Cの趣味は料理と陶芸と決定して、残りの旅行と写真が趣味の人はそれぞれAとBのいずれかとなる。

ここで、さらに条件キより、旅行が趣味の人と音楽が趣味の人は別人なので、音楽が趣味であるAのもう一つの趣味は旅行ではなく写真と決定し、Bの趣味は旅行と決定する。以上をまとめると次の表のとおりである。

趣 味	料	音	読	陶	旅	写
A	×	○	×	×	×	○
B	×	×	○	×	○	×
C	○	×	×	○	×	×

よって、正解は肢1である。

【正 解】 1

目次

Part I	政治	1
<hr/>		
Chapter 01	民主政治のしくみ	2
01-01	国家観の変遷	2
01-02	民主政治の原理と発展	3
01-03	世界のさまざまな政治体制	10
Chapter 02	日本国憲法の基本的性格	18
02-01	日本国憲法の基本原理	18
02-02	日本国憲法における基本的人権の保障	21
02-03	基本的人権の種類	23
02-04	人権に関するその他の論点	35
02-05	国民の義務	38
Chapter 03	日本の政治機構	40
03-01	日本国憲法下の政治機構	40
03-02	国会	41
03-03	内閣	51
03-04	裁判所	54
03-05	地方自治	64
Chapter 04	現代政治の特質と課題	68
04-01	行政機能の拡大と民主化	68
04-02	国民の政治参加	70
04-03	民主政治と選挙	74
Chapter 05	国際政治と国際機構	78
05-01	国際社会と政治	78
05-02	国際連合	79
05-03	国際的活動	84

問 題	88
------------	-------	----

解 説	96
------------	-------	----

Part II 経 済	105
--------------------	-------	-----

Chapter 01 資本主義経済の基本原理	106
-------------------------------	-------	-----

01-01 資本主義経済の歴史	106
01-02 経済理論の変遷	109
01-03 経済主体と経済循環	110
01-04 市場原理とその限界	113

Chapter 02 国民所得・景気	122
---------------------------	-------	-----

02-01 国民所得	122
02-02 景 気	125

Chapter 03 財政・金融	130
-------------------------	-------	-----

03-01 財 政	130
03-02 金 融	137

Chapter 04 国際経済	142
------------------------	-------	-----

04-01 外国為替と貿易	142
04-02 国際経済機構と地域経済連携	147

Chapter 05 戦後の世界と日本の経済	152
-------------------------------	-------	-----

05-01 戦後の国際経済の枠組み	152
05-02 戦後日本の経済	154

問 題	164
------------	-------	-----

解 説	170
------------	-------	-----

Part III 社 会 177

Chapter 01 現代の国民生活..... 178

01-01 労働問題と労使関係 178

01-02 社会保障 182

Chapter 02 現代の社会問題 186

02-01 少子・高齢化問題 186

02-02 環境問題と生物多様性の保全 188

問 題 192

解 説 194

Part IV まとめシート 197

Chapter 01 政 治 198

Chapter 02 経 済 220

Chapter 03 社 会 237

付録 日本国憲法 241

Part I

政治

- Chapter 01 民主政治のしくみ
- Chapter 02 日本国憲法の基本的性格
- Chapter 03 日本の政治機構
- Chapter 04 現代政治の特質と課題
- Chapter 05 国際政治と国際機構

問題・解説

政治分野では、政治制度の基礎（Chapter01, 04, 05）と日本国憲法（Chapter02, 03）に関する出題が中心になります。

日本国憲法は、人権分野と統治分野それぞれが、必ずといっていいほど出題されますから、緻密な学習が必要です。本文をしっかり読み込み、問題演習を繰り返して実力を養ってください。

ほかにも、各国の政治制度、地方自治、選挙制度の概要、国際関係の基礎がよく問われます。確実に理解しておきましょう。

01

民主政治のしくみ

民主政治とは「自由な人民の同意にもとづく政治」です。

ここでは、まず、国家と国民の関係がどのように変化してきたかという、国家観の変遷を学習して、民主主義の歴史の概要をつかんでもらいます。つぎに、この民主政治を支える基本的な考え方（原理）これらが発展していく様子をみていき、最後に、現在の世界のさまざまな政治体制の具体例を学習していきます。

01-01 国家観の変遷

国家観の変遷は、民主政治の発展とリンクしています。学習を通じて、民主政治の歴史の大きな流れをつかむことを意識してください。

近代主権国家の成立から 20 世紀に至る時代にかけて、民主政治が成立・発展していくにつれて、国家に対する考え方（国家観）は大きく変容してきた。そしてこの国家観の変遷が、社会のあり方や経済的な考え方にも大きな影響を与えている。

(1) 近代初期の国家

① 絶対主義国家

強力な君主をその頂点に置く近代国家において、君主(国王)が政治権力を掌握し、国家全体を直接かつ絶対的に支配する体制が採用された。

② 警察国家

絶対主義国家では、国家的秩序の形成維持のために国民の財産や自由を侵害する警察的規制を行うことが常態となった。このような国家権力行使のありさまをさして、警察国家とよぶ。

(2) 市民革命以降の国家

① 夜警国家

近代市民国家では、自由主義思想の下、国家の役割は国内の治安維持と外敵からの防衛など必要最小限に限定され、市民の間の私的な経済活動や社会活動には介入すべきでな

いとされた。

② 立法国家

議会主義が確立した結果、政治の中心は議会在が担うようになり、立法権を有する議会（立法府）が行政権を有する政府（行政府）に対して相対的優位を確保した。

(3) 20 世紀の国家

① 福祉国家

資本主義経済の発展により生じた、富の偏在や貧困などの社会問題解消のため、国家が一定程度国民生活の領域に積極的に介入し、社会的・経済的弱者を救済することが求められることとなった。

② 行政国家

国家は経済政策や社会政策をはじめ広範な領域に対して積極的な施策を講じなければならず、そのため行政権が拡大することになり、行政権の立法権に対する相対的優位が確立した。

01-02 民主政治の原理と発展

ここでは、似たような人物や事柄、考え方が数多く登場しますが、本試験では、各々の違いを正しく理解できているかが問われます。各々の違いに着目しながら学習してください。

1 社会契約説 ～民主政治のもととなる理念～

17 世紀から 18 世紀の市民革命期の代表的な政治思想である社会契約説では、一切の社会的秩序のない自然状態を想定し、そこから個人がその自然権を確保するために相互に社会契約を結び、その結果として国家が設立されるという理論構成をとる。

社会契約説の代表的な思想家として、ホッブズ、ロック、ルソーが挙げられる。

自然法

人間の理性を根源として、あらゆる時代や社会に存在する観念的な法のことをいいます。これに対する語は、それぞれの時代の政治体制において人為的に制定される「実定法」です。